

大阪市中央区わがまちガイドナビ  
vol.1

vol. 1

まちの魅力を伝えるきっかけに

「中央区わがまちガイドナビ」誕生のヒミツ

ガイドナビ活用のお願い



# 食べて、参って、くつろいで 黒門市場、高津宮、空堀の由来とまちづくり

## くろもんいちば 黒門市場

天下の台所と呼ばれた大阪を代表する商店街といえは、黒門市場。大阪の発展を支えてきた歴史とほんまもんの味を追い求め、ますます活気づく取組みは必見！

### なぜ「クロ・モン」なのか？

天下の台所大阪を代表する商店街「黒門市場」。その名前の由来について考えたことはありますか。

「クロモン」は、黒い門と書きますが、商店街にも、周辺にも黒い門は見当たりません。「赤門」といえば、東京大学の門が有名でインボルトになっています。実は、ここにもかつて「黒門」が存在したのです。明治維わり頃、大火で焼失し、移転するまでここにあった圓鏡寺、その門が黒く、その門前に発展したため、この商店街は黒門市場と呼ばれるようになったのです。

### まちの発展と商店街の発展

明治の頃、千日前かいわいには刑場がありました。その後、刑場は廢止され、芝居小屋ができ、人が集まりだしました。その頃から見物客を自らに飲食店が増え、飲食店を支えるために鮮魚を中心とした食料品店が100件ほども集まりました。それが黒門市場の起源と言われています。（商店街理事長談）

### 「ほんまもん」で勝負！

黒門市場は店頭での小売りだけでなく、老舗料亭などに食材を卸すことで大阪の食文化を支え、繁盛してきました。しかし、近年の経済情勢の変化で廃業する料亭が増え、商売の転換をされています。また、中国製の凍餃子の事件など、食品安全が騒がれていることも商店街の方々を考慮すべきになりました。

そこで、掲げられた活性化に向けたキャッチフレーズが「ほんまもん」でした。黒門市場のものは絶対安全にしたいという思いで、また、黒門市場の商品をなら大丈夫だと、黒門市場のブランドイメージを強化したいという戦略でもあります。

「黒門」「黒門市場」を冠した商品の開発、商標登録など具体的な取組みがどんどん進められています。



正面が黒門市場商店街振興会理事長の西さん

### 巨大なフグやカニ、マグロたちが出現！

活性化に向けた新たなターゲットとして考えられているのが、観光客です。関西国際空港の開港以来、特に食文化の似通ったアジアからの観光客が増えています。

アーケードに吊り下げられた巨大なフグやカニなど全7種類の巨大モニュメント。これらは、2008年3月、もっと元気にそしてお客様を呼び込むシンボルとしてつくれました。観光客にわかりやすく商店街の食材を示すうる意図もあり、記念写真の被写体として人気のとなっています。黒門市場の記念写真是、観光客が神社に繋がって知人たちに紹介し、さらに広まることが期待されています。巨大な魚たちは、観光PRに役立っているのです。



### 新しい区民の方や観光客にもきてもらいたい

商店街では、近年、マンション建設が盛んで、区内の人口が増えていることから、観光客だけでなく、転入してきた新住民に向けたPRも考えています。特に、普段違い、家庭で料理をしない方が増えていますから、食材だけでなく、すぐに食べることのできる総菜などの中食の販売や試食できる店舗を増やそうと取り組んでいるとのことです。

### 地域の繁栄こそ、商店街の繁栄！

「地域が繁栄しないと市場も繁栄しない。またその逆もある」と、商店街理事長の西さんは熱く語ります。祭りの時に「シャッター街で神輿を説らせたくない」という想いで、まず一つの店舗が魅力的な努力をして、祭りに支援したいと考えているのです。お金を出せるだけの店舗の力を付けるためにまずは自分のこと、しっかり儲けけることを欲しい。繁栄こそ地域貢献とも話されています。商店街は元気をくれる場所ですね。



黒門市場のあゆみ

明治35(1902)年	大阪府より公認市場「圓明寺市場」として認可
明治45(1912)年	難波の大火で焼失。無事で青空市を開く
大正10(1921)年	徐々に門市店とされるよう、黒門市場組合設立
昭和10(1935)年	空襲で焼失。住人や難波を余儀なくされる
昭和23(1948)年	黒門市場組合を再設立。7年、黒門市
昭和28(1953)年	この年有名な「カーブアーチ」アルソの全盛期に至り巻き返り
昭和35(1960)年	テント式アーケードから鉄筋式アーケードへ
昭和40(1965)年	活性化の一環で「黒門夜市」を開催
昭和44(1968)年	組合員、従業員、お得意様専門の「広報誌」黒門
平成1(1989)年	インターネットホームページ開設
平成11(1999)年	イタリアンミラノソーシュミ市場と姉妹関係を結ぶ
平成16(2004)年	「黒門」を看板登録。翌々年「黒門市場」も
平成20(2008)年	黒門ミニマート(全種類)完成
	(黒門市場商店街振興組合・黒門市場の概要)より

### 知って得する！地域情報

#### ■黒門市場ホームページ

<http://www.kuromon.com/>

イベント情報のほか、話題の黒門市場ポンズをはじめネットショッピングの情報もあります。

#### ■黒門市場土曜とくとくペッパー

毎週土曜日に使うことができる割引券がついたお得な情報誌。チラシは新聞折込の他、市内にもお流れています。携帯電話からも右側のQRコードで見ることができます。(お問い合わせ用紙があるのですぐ読み下さ)



ポンズの発売は新聞にも取り上げられ、人気です。黒門市場の生鮮食品とのポンズで各家庭でお鍋を味わってみてはいかがでしょう。将来は本店にも出荷したいとのことです。大きな夢が発進しました！

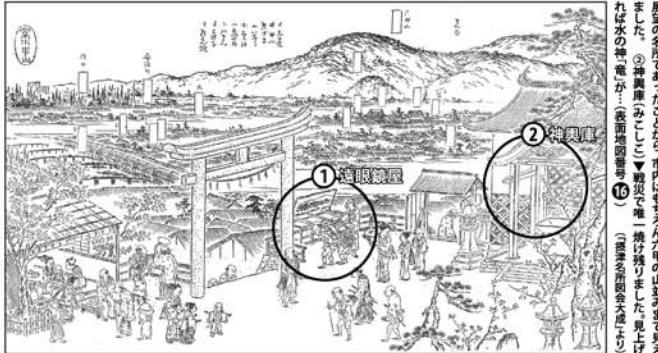
区南部に位置する黒門市場から、高津宮、空堀を順に紹介。商店街、神社、下町と異なる魅力をもったそれぞれの地区でのまちあるきを楽しんでもよし、少し足を延ばして、2地区、3地区と異なる表情をもつまちの魅力にふれるもよし！

## こうづくう 高津宮

昔も今も話題豊富な高津宮。落成にも登場する「煮焼き」についての貴重なお話をはじめ、昔から現在に至る取組みのルーツとねらいは区民必読のネタ。

### タカツノミヤ？ コウヅゲウ？

高津宮の読みを「タカツノミヤですか？」という方が多いとのこと。時代によっては高津神社(コウヅゲンジヤ)と呼ばれたこともあり、コウヅゲンジヤ、コウヅノミヤと呼ばれていたことも。いったい何と呼べばよいのでしょうか？「宗教法人法で登録しているのは「コウヅゲウ」です。電話の応対でもそう話しています」とは宮司さんのお話。(右につづく)



### 落語と高津宮、詳しくは「高津の富亭」で

「高津の富亭」のきっかけは、平成12年で夏祭りに桂文枝師匠に境内の參集殿で落語を演じていただいたことでした。その後、亡くなられる直前にまた落語の機会があり、その演目が「高津の富亭」だったことから、參集殿内「高津の富亭」と呼ぶようになりました。平成18年には、境内の比叡古曾神社の前の場所に桂文枝師匠の碑が建てられ、師匠に縁のあるミニマの角に向かっています。

ミニマに近く、庶民の楽しみの場として知られていた高津宮は、落語のネタとして登場します。よく知られたものに「高津狐」(兼後堂)、「もりの黒焼き」などがあります。

「高津狐」は、女性化して人をだまし、うまい湯豆腐を食べようと自論なんだけが逆に人に間でだまされるという筋で、化けるところを見たまつりました。大量に酒を飲まれ、失敗するという脚本です。その湯豆腐屋が高津宮のそばのよく知られた名物店という設定です。

高津宮は、「高津の富亭」での落語の他、伝承や文化を現代にアレンジした色々な取組みが行われ、若者からお年寄りまで幅広く楽しむことが出来ます。

### 耳寄りばなし 名物湯豆腐復活！

平成20年の秋祭りに、江戸時代に名物だった湯豆腐が復活しました。昔から上町台地には良質の地下水があることの、湯豆腐の味がよく、名物になったと言われています。

秋祭りでは現代風にうどんダシ風味にアレンジし、熱燗とセットで500円で売り出し、即完売！とても好評でした。赤い椀に鶴豆、あんかけ、鰯、ねぎしがが入っています。



秋祭りに湯豆腐を先だした時のノボリを持つ吉田さん

創建当時は難波の宮の辺りにあり、今の場所に移った理由は、当時の場所と今の神社がある場所が同じような景色だからだそうです。ちなみに天王寺区東高津町にある東高津宮は、一時期、高津宮が移った場所の一つです。

### 高津宮のあゆみ

貞觀8(666)年	難波の宮の辺りで創建
天正11(1583)年	大坂城築城の際、現在地に移る
大正10(1921)年	大阪府の神社に改称
昭和20(1945)年	神興庵の焼け残り、社殿はか焼失
昭和36(1961)年	社殿等復興
	(高津宮組合/パンフレットより)

### 脂で、観て、食べて—江戸時代の高津宮

江戸時代、庶民の楽しみは寺社仏閣に脂で、お芝居を見たり、おいしい物を食べたりすることでした。下の絵は、当時の高津宮。名物とされたいた遠眼鏡屋さんなどが描かれています。

## からほり 空堀

商店街を中心に広がるタイムスリップしたような不思議なまち、空堀。歩くだけで十分楽しいけれど、石垣と大阪城との関係などダメ知識を知ることで楽しさ倍増。

### めずらしい坂の商店街

空堀商店街は明治時代からできはじめ、大正時代には、延命地蔵の縁日で当たるの付く日の夜店が有名となりにぎわいました。戦後も、戦災を免れたことで商店が集まり発展をつづけています。

老舗、有名な飲食店、古い建物を活かした若い店主の店舗など、坂に沿って、色々な店舗が軒を連ねています。

### ほっとするまちなみが残る空堀

戦国時代、農臣秀吉が大阪城を守るために、城の南側に築いた外堀が現在の空堀商店街付近にありました。水を入れない空の堀だったことから「空堀」と呼ばれたという説があります。その名は商店街に沿って見られる石垣が残しています。

空堀は、戦災を免れ焼け残った建物が多く、長屋や路地、石垣にお地蔵さんなどが特徴的な情緒あるまちなみが残っています。

### 空堀のまちなみを残したい

「つながりを生むまちなみ」づくりに向けて、空堀商店街は、市の支援を受け、古きまちなみを保存、再生する活動に取り組んでいます。

最近、再生整備された建物が少しずつ増えています。丸与酒店店は、改修後、奥通り、奥通りの商店街で再現されています。建物上部の側面には当時の面影が残っています。



### 空堀のあゆみ

開拓時代	豊臣秀吉が大阪城を守るために、城の南側に外堀を築く
大正3(1914)年頃	庶民の楽しみの一つとして地元の延命地蔵の縁日に当たる40日に夜店が出来るようになる(戦前まで続く)
昭和20(1945)年頃	商店街結成、大阪市内で最初に福引き売り出しを始めた人気を博す(現在も6,12月に開催)
昭和25(1950)年	アーケード完結
	(参考:おおさか・あんじゅ・ネット)

### 知って得する！地域情報

#### ■空堀まちなみ保存活動

・空堀まちなみ井戸端会ホームページ(活動内容)  
<http://karahori.hpt.infoseek.co.jp/>

・空堀まちなみ井戸端会・空堀地区PEゾーン協議会(概要)  
[http://www.toshihirai.jp/machidukuri/w\\_tosaka.html](http://www.toshihirai.jp/machidukuri/w_tosaka.html)

#### ■空堀かいわいイベント情報

・空堀商店街・福引き売り出し~毎年7・12月開催

・からほりまちアート~毎年10月頃開催  
<http://karahori-machi-art.com/>

・ダシの取り方教室の様子



### 空堀のまちを見るマメ知識

#### ・うだつ

普段気なく使正在ことわざの中には、よくよく考えてみると意味が分からることってありますか？例えば「うだつがあるがない」の「うだつってございますか？」

「うだつがあるがない」の意味は、仕事などで成果が出ず、先の見込みがない状態を言います(結果には結果ありますが、この「うだつ」とは写真のように建物から張り出した壁のことなんす)。空堀はあちらこちらで見られます。全国的には徳島県の町はうだつのまちなみで有名ですよ。



#### ・冠木門(かぶきもん)

空堀のまちを歩くと、路地の入り口に同柵や小さな瓦屋根がついているのを見かけます。この門は冠木門と書われます。正面の横架材をアーチ形式として開くと、その裏側には冠木門と書かれていた古い石柱上に古いて立派なうだつが並んでいます。



### 耳寄りばなし 昆布のルーツをたどって…

空堀商店街にある「こんぶ士居」漫画「美味しんぼ」にも登場した老舗です。店主の土居さんに伺うと「先代からいい昆布をつくるには材料が大切」と、北海道のよい昆布がされる地区に毎年足を運び、生産者との懇親の見聞關係づくりに取り組んでいます。10年前からは、北海道の小学校まで、食育の一環として講演に行かれています。

そのような地域活動が、平成19年に初めて北海道の現地の高校生が、修学旅行で空堀の商店街を訪問することになりました。なんと、その修学旅行生は小学生の時、時計の講演を聞いた生徒だったのでした！意外にも北海道の地元の子どもたちは昆布などのように流逝し消費者まで届いている知らない。昆布のすばらしさを知り、昆布にプライドを持って欲しい」と土居さんは話します。

翌年(平成20年)も修学旅行生が訪問。土居さんも2回目ということで工夫を凝らし、「美味しいんぼ」作者の土居さんも駆けつけ、お得意先の料理人さんが昆布で取ったダシでたこ焼きをつくり、もてなしました。

